

海の幸ゆたかな海、はまなす咲く浜、開拓の汗がしみこむ大地を、軍靴で汚すな！

浜大樹通信

NO.26 2006/6/23 「浜大樹上陸訓練反対十勝連絡会」

事務所：帯広市東 11 南 9 (労連十勝ブロック)

Tel.0155-25-5081: FAX.0155-27-2080

大樹安保/道労連十勝ブロック/帯広安保/帯広民商/帯広原水協
帯広平和委/日本共産党十勝地区委/新婦人帯広

第五旅団に申し入れ

7月7日(月)午後4時、第五師団に「演習反対」の申し入れをしました(裏面に掲載)。申し入れには、道労連十勝ブロック議長澤村氏、大樹安保志民氏など7人が参加しました。総務課長と広報班長が対応しました。

話し合いの中で判明したこと：浜大樹上陸訓練は7月7日で8日が予備日 隊員の移動に「とかち帯広空港」を使用しない(女満別・釧路空港を使用する)、C-1輸送機の中継基地になりうる 「おおすみ」に搭載している LCAC で戦車の輸送はありうる 南方転地演習(7/19-25)に参加する部隊は、第五旅団第六普通科連隊(網走管内美幌町) 上陸した部隊が帯広に立ち寄ることもある 物資は JR を使用して運搬するものもある

【十勝毎日新聞】2006/6/20 浜大樹上陸訓練中止申し入れ 十勝連絡会

陸上自衛隊第五旅団(司令部帯広、姉崎泰司旅団長)と同第十三旅団(広島県、佐藤修一旅団長)が7月に行なう協同転地演習に反対する市民団体「浜大樹上陸訓練反対十勝連絡会」の澤村豊代表らが19日午後4時、陸自帯広駐屯地を訪れ、第五旅団に同演習の中止を申し入れた。

同演習は、第十三旅団が広島から大樹町浜大樹を経て、根室管内別海町の矢臼別演習場に向かう北方転地演習と第五旅団第六普通科連隊(網走管内美幌町)が静岡の東富士演習場などで行なう南方転地演習がある。第十三旅団は19日に広島を出発、7月7日に浜大樹で揚陸訓練を行なう予定。

この日は澤村代表ら7人が第五旅団司令部の右田総務課長に、「有事を前提とした演習はいたずらに国民の不安をあおる」とする申入書を読み上げて手渡した。

【しんぶん赤旗】2006/6/21 道内版にも申し入れの記事が出ています

【北海道新聞】2006/6/21 十勝版にも申し入れの記事が出ています

集会は7月7日午前8時

19日(月)午後6時から第1回実行委員会を開き、反対運動の概要を決定しました。北海道知事や北部方面総監部、大樹町長にも申し入れをする 大樹町で7月1日(午後2時「大樹町福祉センター」集合)、帯広市(午後1時から「藤丸」前)で7月2日に宣伝活動を行なう 現地「浜大樹」での集会を7月7日(金)午前8時から開く ヤグラ設置は7月6日午後に行なう 「6・23十勝集会」で志民氏が経過を含めて集会参加の呼びかけをする 「浜大樹現地集會」のチラシを「6・23十勝集会」までに完成する などを決めました。

次回の実行委員会を、7月2日の街頭宣伝の後に開くことにしました。

様々な情報を

- ・苫小牧港を使用する部隊の移動について情報が入ってきました。新潟港行きの新日本海フェリー、大洗港行きの商船三井フェリー、大洗港発の商船三井フェリー、名古屋港発と仙台港発の太平洋フェリーを、それぞれ利用して部隊が移動します。民間の定期航路を使用する「慣熟訓練」への抗議も計画されています。
- ・また、第13旅団の動きについても遠く神戸方面からも情報が寄せられています。前号の「浜大樹通信」にある部隊の移動予定に基づいて、様々な情報をお寄せ下さい。

陸上自衛隊の「北方・南方機動特別演習」と
それに関わる浜大樹上陸演習および帯広空港使用に関する申し入れ書

陸上自衛隊第5旅団長

姉崎 泰司 様

陸上自衛隊北部方面総監部発表によると、昨年同様、「北方転地」と「南方転地」演習を実施するとのこと。昨年からはじめた「南方転地演習」では、市街戦を想定した都市型訓練が行なわれたと報道されています。また、矢臼別演習場への「北方転地」演習も海上自衛隊輸送艦を使用し、実施されました。

どちらの演習・訓練も現実にはほとんど想定しにくい「有事」を前提にして実施されてきたものですが、いたずらに国民の不安を煽る有害で無駄なものです。

日本の国の安全は、日本国憲法で定められた平和主義に基づく国際協調や平和外交などの不断の努力によって達成されるものです。また国内の治安維持は、本来警察が担うべきものであり、自衛隊の任務ではありません。

特に浜大樹海岸で実施されてきた「海から陸へ」の揚陸(上陸)訓練は、専守防衛を標榜する自衛隊にとっては必要のないものです。この訓練が必要とされる場面は、自衛隊がアメリカ軍とともに海外に向けて侵攻する時にしか考えられません。

また、民間定期便を利用して部隊を移動することが予定され、それに伴い「とかち帯広空港」を使用することが危惧されます。その際、予想される「戦闘・迷彩服」での搭乗は、一般国民に「戦時」を慣れさせる「慣熟訓練」であり、そのやり方は大変意図的で巧妙だと言わざるを得ません。私たちは民間機と民間空港の軍事使用に反対します。

これらの軍事訓練を強行することは、平和を願う多数の国民に対するあからさまな挑戦であり、日本国憲法上も絶対に容認できません。

私たちは、以上の見地から貴職を通じ権限のある上部に対し、下記の申し入れをするものであります。

記

- 1 「北方・南方機動特別演習」を実施しないこと
- 1 外国侵攻を想定し、日本の平和と安全を脅かす、危険な浜大樹海岸での上陸訓練を実施しないこと
- 1 民間定期便利用の部隊移動、「戦闘・迷彩服」での搭乗をしないこと
- 1 帯広空港を使用しないこと

2006年6月19日

浜大樹上陸訓練反対十勝連絡会

筆頭代表 澤村 豊

(事務局) 安保破棄・諸要求貫徹帯広実行委員会

帯広市東11条南9丁目 TEL 0155-25-5081